

JCWA

NEWSLETTER

Vol.05

日本カーラッピング協会 会報誌

[JCWAニュースレター]

2026年 2月発行

発行/編集制作 一般社団法人日本カーラッピング協会 広報部
〒101-0047 東京都千代田区内神田3-2-1 喜助内神田3丁目ビル402号 FAX: 03-6206-4986



多様化する

PVC polyvinyl chloride

TPU Thermoplastic Polyurethane

Colored / Inkjet / Clear

Dry / Wet Adhesive

素材と向き合おう

C O N T E N T S

[特集] ◎SEMA2025 視察レポート

◎競技会レポ1 World Wrap Masters JAPAN 2025

◎競技会レポ2 第4回全日本PPF選手権 2025

▶ [NEW&売れ筋!] 注目のプロツール

▶ [理事からのメッセージ] #8 木ノ内朋宏

#9 久保田博之

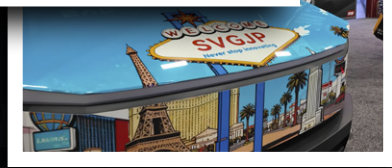
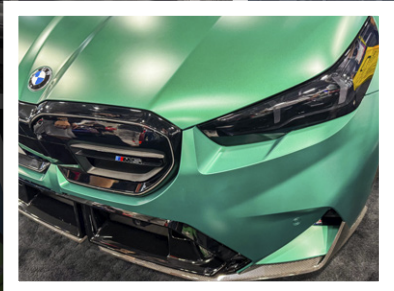
カラーPPF最前線

—マルチ化するフィルム施工業の展望—

クリアPPFを筆頭に、近年ではカラーチェンジにおいても存在感を増すTPUフィルム。従来のPVC、高機能なTPUと、幅が広がるフィルムをプロ施工者はどのように扱うべきか。SEMA、WWM Japan、PPF選手権の3トピックスからヒントを探ります。



グロス・マットにとどまらず、偏光系やブラッシュド、デザイン印刷まで、カラーPPFのラインナップもラッピングフィルムに迫る勢いで多彩さが増している



各ブースでのミニ競技会も恒例！最新フィルムを見て・触る協会員たち



年に一度の“世界を知る機会”協会が臨場をサポート

JCWAでは11月4～7日、アメリカ・ラスベガスで開催された世界最大の自動車用品見本市「SEMAショー」の視察ツアーを実施しました。毎年訪問している理事メンバーに加え、今回は事前の公募に手を挙げた3人の一般会員も帯同。意見を交わしながらの展示会視察に加え、最終日にはJCWA関係者全員で夕食を囲み、親睦を図るとともに“フィルム施工ビジネスの次の一手”を模索する機会となりました。

SEMAショーではここ数年、カラー

PPFがホットなトピックスとなっています。今回も前年に引き続き、会場内には数多くのカラーPPFの展示がズラリ。大型装飾が多い各ブースの規模感をはじめ、ハイエンドな展示車両に施工実演、賞品付き競技会と展示コンテンツも充実していて、数多ある自動車用品の中でフィルム施工が注目を集めていること、とりわけ各フィルムメーカーがカラーPPFに注力している「世界的なフィルムトレンド」を肌で体感できました。その背景には、見た目に華やかなカラーPPFが展示物として機能しやすいということもさることながら、カラーPPFが激しい製品開発競争の真っ只中で

あることもあります。市場規模では依然としてクリアPPFが主流ですが、メーカーごとの差別化が難しくコモディティ化が進んでいる側面も。その点カラーPPFはまだ黎明期と呼べる状況で、プロ施工者がこれからどのように取り扱っていくかが今後の市場成長の鍵を握っている状況。変化が激しいカラーPPFは、言い換えれば不安定な要素も多く、施工者にとっては“材料の見極め”が重要にもなってきます。

JCWAでは、今回のSEMA視察に限らず、引き続き競技会や講習会を中心に“進化するフィルムをプロ施工者にとって有益な形で共有する機会”を設けていきます。



日本でも馴染みの有名ブランドから新興・マイナーブランドまで、1日では回りきれない程に並ぶカラー PPF 展示ブース。希少なスーパーカーの展示、施工のデモ実演、競技コンテストとそれぞれのブースが盛大で、会場は活況を呈した

大手・老舗ブランド×実績 or 新興・マイナーブランド×高コスパ

日々変化するフィルムの選び方

技術×貼付面×厚み・接着層 (ドライ・ウェット・ハイブリッド)

玉石混交極まるブランド 接着層は兼用型が主流に？

前年に引き続き、今回もカラー PPF 展示で印象的だったのが、製品ブランドの多様化です。SEMA 会場には、日本でも馴染み深い欧米系ブランドのほか、日本では見聞きしたことすらないブランドも多数。特に近年はアジア諸国に製造拠点を持つブランドが増え、スピーディな開発力による多彩なカラーバリエーション、m 単価が大手ブランド比で 1/2 以下であることも珍しくない高い価格競争力など、魅力的なカラー PPF の姿が数多くありました。

一方で、フィルム施工はその性質上、フィルム自体はもとより、剥離時の塗装面への影響など、経時後の一定の品質も要求されるサービス。そして、フィルムの耐久性は一施工者では検証しきれない品質でもあります。価格的に割高なポジションに置かれ

つつある有名・大手メーカー品は、この“見えにくい品質”において1つの安心材料に働くこともあり、コスパか品質か、ブランドが増える今日では、これまで以上に製品選びにおいてそのバランス感が重要となってきたように見受けられます。

また、ブランド増加に伴うカラー PPF の変化として、「製品仕様」も多彩になってきています。顕著なのが接着層。従来、カラー PPF はクリア PPF と同様「ウェット施工用のベタ糊」が主流でしたが、今回の SEMA 会場を見ると「ドライ施工用のエアフリー糊」も増えてきた印象。中でも、ウェットでも貼れるドライ施工用糊「ハイブリッド（兼用）型」も存在感を強めてきており、利便性の点では今後これが主流になってくる可能性もありそうです。

特にカラー PPF は、PPF の名を冠しながらも用途は装飾・カスタムのため、請負事業者としてはクリア PPF 施工者より

ラッピング施工の方が親和性が高い側面があります。一方で看板・PVC ラッピングが主の場合、ウェット施工の設備環境が整っていないケースもあり、そうした事業者にとってドライ型カラー PPF の台頭は心強いところ。また、バンパーなど複雑・細かな形状のパーツではドライ施工、ボンネットやルーフなど貼付後の艶感などを優先したい広いパネル面はウェット施工と、施工の効率化・品質向上を図る“用途に応じた使い分け”も今後一層進みそうです。

参入メーカーの増加とともに選択肢が広がるカラー PPF。言い換えると、「特定ブランドのみで全ニーズ・場面に応える」というのが難しく、品質・コスト・技術・設備環境・貼る対象・顧客ニーズ・近隣競合などに応じて材料を選べる時代でもあります。その中で適切な選択をするには、これまで以上に“適切な情報収集”が大切になってきているのではないのでしょうか。

印刷にもTPU素材 求められるマルチ技能

複雑さ増す競技で 高い基礎技能と全力さが輝く

JCWAは25年11月、5回目を迎えたWWM Japanを開催しました。24年の前回、世界的トレンドを取り入れ、世界各地のWWMに先駆けてPVC・TPUの両素材を採用。今回はさらにインクジェットでもPVCに加えてTPU素材製品を採用しました。数年前まではPVC素材のカラー・インクジェットの2種のみだったラッピング競技、今大会ではそれにTPU素材のカラー・クリア・インクジェットの3種が加わった計5種(+クリエイティブ)の設定となり、実際のビジネス現場と同様、より幅広い技能を問う機会となりました。

特にTPU型インクジェットはまだ新しい素材製品で、初見の選手も少なくなかった様子。その中でも、特に勝ち抜いた上位層では、TPU素材・インクジェットそれぞれの施工技能をベースにその場でしっかりと対応している姿が見受けられました。昨今、カラーチェンジでも印刷でもTPU素材が台頭している一方、幅広いニーズに応える・高い品質に仕上げには、少なくとも現時点ではTPU素材単体では完結せず、PVC・TPUそれぞれの特性を踏まえた施工技能が不可欠。決して従前からのPVCの施工技能が不要となるものではなく、競技のみならず実サービスにおいても、むしろ幅広い技能・柔軟な対応力の必要性

▷決勝戦に臨む6人。うち5人は25年のドイツ大会に遠征し、出場・観戦したメンバー



△左から順にPVCのカラーチェンジ、TPUのインクジェット、クリアPPFと多彩なフィルム施工技能が要求された。クリエイティブ種目(写真右)も2ラウンドにわたり、単純な貼る面積だけでなくデザイン性も厳格に審査された。写真手前は評価が高かった鈴木勇也氏の作品

World Wrap Masters JAPAN2025 2025年11月22~24日 ポートメッセなごや (Japan Mobility Show Nagoya内)

は増しているのではないのでしょうか。

こうした異素材への対応力に加え、今大会の勝敗の行方を大きく左右したのが、1Rから決勝まで累積点で順位付ける審査方式です。WWM JapanはWWMを主催するFESPAの規格に準じて運営しており、審査員・審査方式も本部基準。前回までは各ラウンドでゼロから採点でしたが、累積評価の今大会は結果的に序・中盤の取りこぼし・減点が優勝争いにまで影響を与える、文字通り気の抜けない激戦でした。

そして見事初優勝を飾ったのが、大会同月にショップを開業した鈴木勇也氏です。第1回大会から果敢に挑戦し続ける鈴木氏は大会後、「他の選手みんなレベルが高く落とせるところがないので、最初から100%、全ラウンド1位を狙うつもりだっ

た」とコメント。同氏の単ラウンドでの高い技能も疑う余地はありませんが、眼前の施工に全力で取り組む姿勢が、特に累積評価の今大会で奏功した形となりました。

競技種目

1R	Fフェンダー・ミラー(片側) : PVCカラーチェンジ(RWF) Rドア: カラーPPF(3M) クリエイティブ: ティッシュケース
2R	Fドア: TPUインクジェット(CARLAS) Fバンパー: クリアPPF(LEGEND)
3R	Fフェンダー・ドア: カラーPPF(3M) クリエイティブ: コーヒーカップ・リップ
4R	ボンネット : TPUインクジェット(CARLAS) PVCカラーチェンジ(KPMF) Rドア: PVCカラーチェンジ(RWF) Rフェンダー: クリアPPF(LEGEND)
決勝	サイド全面: PVCインクジェット(ORACAL)

Winner's Interview

“楽しむ者が強い”を体現！ 競技も業務も全速で 念願の世界一へ前進

Q.優勝おめでとうございます！

ありがとうございます。WWM Japanは第1回から出続けてきて、特に2回目(22年)は初日敗退で、独立する直前の年だったこともあって今でもそれが一番悔しかった…。でも大会は本当に毎回楽しくて年々徐々にステップアップでき(※23年7位、24年5位)、25年にはドイツ大会にも出させていただきました。特にそのドイツ遠征と、同じ5月の第2回全日本カーラッピング選手権は、今回の優勝に繋がった大きな経験のように思います。

ドイツでは、地区大会に加えてFINALも観戦したのですが、トップの選手らを見て「ここまで貼らないと勝ち残れないのか」と。自分の中での“規定時間に対する仕上がりの妥協ライン”を一段引き上げられた感覚でした。その経験を持って出た第2回選手権、自分はその引き上げたレベルを実現はできませんでした。ただ、優勝した(トレンゴブ)海くんが俺が目指していた仕上がりをやっている！ドイツもドイツでめっちゃ強くなっている！と、また別の意味で刺激を受けました(笑)。

Q.改めてご経歴を教えてください。

カーラッピングは22歳頃から始めて、9年ほどのキャリアになります。元々いた看板屋で「ラッピングできる職人が一番」的なことを聞いて転職したのがきっかけです。そこから埼玉の施工ショップで約6年務め、その後独立してフリーランスになり、色々な施工ショップにヘルプ要員として駆け巡っていました。

独立当初は不安も大きかったのですが、色々なショップの方・施工者に助けていただき、競技会でMVP受賞したことなどもきっかけにヘルプの依頼も増えてくれて…。ラッピングがメインですが、最近PPFのメーカー認定試験を受けたりもしました。

Q.新たにショップも開業されたんですね？

25年11月に八王子市に施工ショップ「フルアヘッド」を川端さんと2人でオープンしました。川端さんとはフリーランス時代に



WWM JAPAN2025優勝者：鈴木勇也氏

東京都八王子市の施工ショップ「Fullahead (フルアヘッド)」代表。31歳(大会時)。施工ショップに6年従事し、フリーランスを経て川端隆之氏と開業。競技にはラッピング・PPF、国内・海外と積極的に挑戦し続けている。

よく現場が一緒になり、技術やスピード、施工・仕事へのスタンスなどで意気投合、開業も彼がいたからこそです。2人とも漫画好きで、店名も共通のマイナー愛読漫画から拝借しました！

2人ともラッピング・PPF・WPF・カラーPPF全て施工できるのでチームワークを生かし、なるべく多くの台数を回転させる効率的な施工を1つの強みにしていこうと考えています。「高級車を高単価・少数」というよりは、異種素材・部分施工なども交えて「大衆車を含めた幅広い顧客層に柔軟な施工を」というイメージで。あとはカーフィルムもメニューに加えたり、将来的にデザイン制作などアート要素のあるサービスも手掛けたいです。

Q.鈴木さんにとって大会とは？

この仕事に就いた当初は、給与などの面も含め「食べていくのは難しい仕事なのかな」と思ったこともありましたが、そこで出会ったのが競技。世界大会もあると聞き、「そんなカッコいい世界があるのか」と。その興奮・楽しさと、単純に「世界一になりたい」という想いが今も仕事へのモチベーションになり続けています。

挑戦の切符を手に入れたので、バルセロナでのファイナルも勝ちます！あと、本当に好きなので、競技がなくならずにずっと続いてほしいなあ。他の施工者と腕を競えるのがとても楽しく、僕と川端さんの“競技への熱量”は誰にも負けない自信があります。



もう僕にとって競技は、施工という仕事の中で欠かせない魅力の1つになっています。

◀共同でショップを立ち上げた川端氏(右)も競技会の常連

[Topic3 第4回全日本PPF選手権2025]

広がる裾野、 さらなる高みに 上る実力者たち。

過去最多規模！ スピード感増す競技レベル

JCWAは25年10月、4回目となるPPF選手権を開催。今大会は前回比で約1.5倍、過去最大となる67人が出場しました。ボディの装飾に保護、窓の保護・UVカット・遮熱と多岐にわたる“自動車用フィルム施工ビジネス”。その中でも、ここ数年、市場の成長を牽引し続けているのがPPFで、今大会は出場選手の数だけでも、その成長の勢いを感じさせました。

市場の裾野が広がる中、注目だったのは参加者の技能レベルの向上です。今大会では大人数ながら、序盤ラウンドでも「貼りきれずに終わる選手」は少なく、また最終日には若手施工者・鬼塚翔輝氏（大阪・TNK）が初挑戦ながら決勝の舞台上で奮闘。施工者・ショップともにPPF市場への参加プレイヤーが広がり、従来の有名店だけでなく新規・若手プレイヤーの技能レベルも着実に向上していることが窺えます。

一方で、優勝したトレンゴブ海氏（大阪・リンダファクトリー）をはじめ、準優勝の井上睦基氏（神奈川・Pファクトリー）、3位の磯真仁氏（東京・ロッキーショア）と、過去大会の優勝者・上位陣が今回も高い実力を示しました。今回は、日本にまだ馴染みの少ない中国「GSWF」やイギリス「MC Films」といった海外ブランドにも協賛いただき、競技に採用。選手全体のスピード



◁安定して高い実力を発揮し続ける上位陣
（左：井上氏、右：磯氏）
△貼り終える選手が増える中、糊ズレなど
わずかな品質エラーが勝敗を左右した

第4回全日本ペイントプロテクションフィルム選手権 2025年10月22～24日 東京・有明GYM-EX（第66回サイン&ディスプレイショウ内）

感や技能レベルが高まり、日頃使用しないフィルムの扱ひも求められる中、先行する実力者たちが頭ひとつ抜けた“対応力の高さ”と、それを可能とする“懐の深い技能”を見せつけた形です。特に上位陣では、「貼り終える人が増えた」中、さらに迅速に規定時間に余裕を持って貼り終え、拭き上げ時に仕上がり確認・微修正して点数を上積みする、という姿もしばしば。競技と実サービスはイコールではないものの、参加プレイヤーの増加に対して先行プレイヤーがさらなる技能向上を追求する、という構図は、単に競技会の中だけの話ではなく、参画事業者が増え日々変化するPPFの市場環境すらも映しているように見受けられます。

優勝したトレンゴブ海氏は、同年5月の全日本WRP選手権でも優勝。WRP・

PPF問わず競技会で高い技能を披露し続ける実力者の一人で、PPF選手権で念願の初優勝を飾りました。次ページでは、その場の環境に左右されずに腕前を発揮する海氏に、異素材フィルムへの向き合い方、技能向上に欠かせない経験量（＝普段の業務）など、技能の裏打ちの一端を明らかしてもらいました。

競技種目

1 2R	Fフェンダー（片側） XPEL Rドア（片側） 3M
3R	Fバンパー（半面） GSWF Fドア・ミラー（片側） MC Films
4R	ボンネット（半面） LEGEND
5R	ボンネット（全面） 3M
決勝	ボンネット（全面）、Fバンパー、 Fフェンダー（片側） XPEL

Winner's Interview

WRP・PPF連覇！ 軸をもって応用を効かす マルチ素材の扱い方

Q.WRPに続いての選手権制覇ですね！

普段の業務がPPF担当なので、PPF選手権で勝てたのは本当に嬉しいです。その後のWWM Japanももちろん勝つ気で臨み、自分ではいつも通りに施工したつもりでしたが…（※結果は準優勝）。流行性の風邪で初日から体調を崩し、日頃の体調管理の至らなさを悔やむばかりです。でも大会はこれからも挑戦し続けまし、殿堂入りするまで優勝を飾りたいです！

Q.ご経歴は前号で伺いましたが、現在のPPF施工の業務について詳しく教えてください。

私がPPF部門の統括者で、25年4月から新人1人が入り、今は2人体制。随時外部の方にもヘルプしてもらっています。PPF・WPF合わせて月平均は30台程。フルボディなど長期作業は6台前後（週に1~2台）で、そのベース予定の合間に部分施工やWPFなどの短期作業を組む形です。事故補修も含めて短時間施工は突発的な依頼が多く、予約の予定通りでは「○週間先です」と顧客を待たせてしまうので、多少無理してねじ込むことも…。

特に大会や連休などがあると納期が厳し目な時もあり、Gクラスのフル施工を3日、その直後にアストンマーティンのフル施工を翌日納車、なんて進行もありました（笑）。「雇われの従業員」としてはもしかしたらハードな環境かもしれませんが、僕は一施工者として将来も食べていきたいですし、「施工者という職業人」としては、諸先輩方を見ても“このぐらいをこなせて初めてスタートライン”なのかなと。でも、例えばフル施工初日などは、夜遅くまでやっても19時に帰っても進行は大きく変わらないので早く帰る、など、メリハリをつけて調整もしています。

Q.ラッピングとPPFへの向き合い方は？

自分の中では、“素材特性”と“仕上がりのゴール”それぞれの違いから“施工のアプローチの仕方の違い”を意識しています。塩ビとTPUでは伸縮性やポストヒートの可否などが異なり、



第4回全日本PPF選手権 優勝者：トレンゴブ海氏

大阪府門真市の施工ショップ「リンダファクトリー」の施工者。23歳（大会時）。18歳で入社し、ラッピング施工を経て現在はPPF部門を統括。競技会ではWRP・PPF問わず上位常連で、25年にドイツ大会にも出場した。

角の処理や熱の入れ方、カッターなどそもそもの扱い方も変わります。また、ラッピングは装飾目的で下地が見えないことが前提、クリアPPFは保護目的で捲れないのを最優先に、エッジの処理はよりキレイに見えるための加点ポイント、といったゴールもそれぞれ少し違う形で意識を設定しています。

一方で共通している部分もあり、自分の中に“フィルム施工の基礎”的な技術があります。それを軸にPVC・TPUといった素材の違い、さらにはメーカーや製法、カラーといった細かな仕様の違いを取り入れ、枝分かれ的に施工に反映させていくイメージで…。この“軸”は、少なくとも僕は「貼りまくって失敗しまくって覚えてきた」感覚です。もちろん人に教わったものもありますが、説明を聞いて分かったつもりになっても結局自分の手で再現できなければ分かっていないのと同じで…。

Q.カラーPPFはどのように見えていますか？

これも自分の中の“軸”をベースに、塩ビ・PPFの施工ノウハウを生かして、すでに様々な製品を扱っています。カラーチェンジだけでなくPPF施工でも役立っていて、例えば黒のボディ・パーツにPPF施工する際、クリアPPFではなく黒のカラーPPFを貼ることも。クリアPPFだと目立ちやすい塗装面のブツや糊ズレ、縁の断面の白さなどを抑え、よりキレイに仕上げられます。

フィルムとして画期的で、今後もどんどん品質が良くなりそう、貼る機会も増えそうという印象。今のところ接着面や厚みなどメーカーの仕様差が大きく、製品の進化も早いので、特定ブランドに縛られない施工の基礎技術が活きる分野でもありそうです。

ただ、逆に言うと「（塩ビ・PPFを触らず）カラーPPFだけ」「特定のブランド製品だけ」という扱いは難しいようにも…。そして、僕たち施工者がしっかり扱えないと顧客には届かないので、引き続き様々な製品・手法をチェック・模索していきたいです。

NEWTTOOLS

for PRO

[注目のプロツール]

賛助会員 掲載は会員No.順

▶ラッピングフィルム

Lustre Wrapping Film



キャスト塩ビ仕様のメタリックフィルム。今までにないスムーズマットの質感を持ち、上質なメタリック感を演出します。粘着はリボジョナブル・エアフリー糊（白色再剥離糊）を採用しており、エア抜け抜群です。

サイズ：1520mm×16m / ロール、1m単位の切売
カラー：全11色 耐候性：約5年

ニチエ

▶[公式サイト](#)

▶インクジェットプリンター

CJV330 Series

高精細かつ安定した長尺プリント性能で、カーラッピングに求められる品質と生産性を高次元で両立。CJV330は優れた色再現性とメディア追従性により、曲面や大型車両でも貼り込み後の仕上がりが美しく、色ブレやズレを抑制します。さらに高速出力と信頼性の高い運用で、短納期案件や多台数案件にも柔軟に対応し、ビジネス拡大を強力に支援します。



ミマキエンジニアリング

▶[公式サイト](#)

▶ラッピングフィルム

KPMF



2025年に正式にオラフォルジヤパンで取り扱いをスタートし、JCWA競技会での採用をはじめ、現場最前線のプロ施工者からも好評を博しています。イギリス・ウエールズ発の魅力的な色彩のラインナップ。まだの人はぜひ一度試してみてください。

サイズ：1524mm幅 25m巻
カラー：スタート在庫数 31色

オラフォルジヤパン

▶[公式サイト](#)

▶カラーPPF

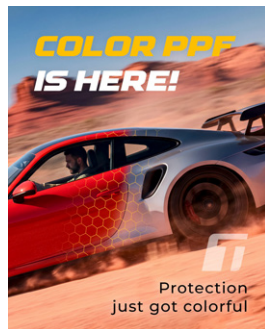
TeckWrapカラーPPF

- ・ドライ貼りでもショックライン、スキージーラインが出にくい
- ・エッジ端部でのカットが可能
- ・セミウエット、ウエット貼りも可能！
- ・PVCフィルムと同じ感覚での施工ができる

驚異の第3世代カラーPPF

規格は1520mm幅18m巻
(エアフリータイプ)

TeckWrap LA



▶[販売サイト](#)

▶カラーPPF

3M™ プロテクションラップフィルム カラーシリーズ



3M™ プロテクションラップフィルムは、車のラッピングとプロテクションの2つの目的を1つの製品で実現します。カラーカスタマイズで個性を引き立てると同時に、飛び石やキズ、汚れ等から車を保護します。フィルムは光沢やマットタイプ、フリップなど約30種類を幅広くラインナップしています。

スリーエム ジャパン

▶[公式サイト](#)

▶カラーPPF

XPEL カラーPPF



XPEL JAPAN

▶[公式サイト](#)

XPELから待望のカラーPPFが登場。グロス・サテン合わせて16色のラインナップです。

高い信頼を築き続ける高品質・耐久性、PPF施工者が自然に扱える柔軟な施工性、ユーザーの心を一歩深く満たす色彩・仕上がりが…。PPFリードブランドのカラーPPFだからこそ応えられるニーズがあります。

▶大判プリンター

HP Latex 730/830 シリーズ



日本HP

▶[公式サイト](#)

2026年初頭に登場する新製品 HP Latex 730/830 シリーズは、白インク印刷が高速化し、ホワイトインクも3M™ MCS™ 認証対応で高い信頼性を実現。

さらに、HP Pixel Controlにより画質も大幅向上。鮮やかな発色と高生産性、環境配慮型インクで次世代のプリント品質を提供します。

▶カラーPPF

FlexiShield コスメティックPPF



ドライ型カラーPPFの先駆けコスメティックPPFが大リニューアル。接着層がウェット施工にも対応したハイブリッド型に進化。凹凸・エッジはドライ、広いパネル面はウェットと使い分けられ、ラッピング施工者/PPF施工者、部分施工/フル施工と幅広いニーズにこれ1本で応えます。

●60インチ×18m (切売アリ)

FlexiShield JAPAN

▶[公式サイト](#)

▶カラーPPF

NKODA カラーPPF

高級車の塗装に匹敵する色調と質感。そして、TPU素材をベースに保護性能を合わせ持つカラーPPF。二層構造の共押出成形で実現することで基剤に直接色を浸透させ、実車の塗装と遜色ない仕上がりを実現。機能性コート層により防汚性・耐候性を付与し、小傷も目立ちにくい仕様に仕上げられています。このたび22色を追加しました。サンブル帳も用意しています。

NKD JAPAN

▶[公式サイト](#)

▶ウィンドプロテクションフィルム (WPF)

Wind Shield Protection Film



フロントガラスチッピング防止用プロテクションフィルム。超高透明PETフィルムの採用で視認性を阻害せず、圧倒的な超耐久・耐候性を有するハードコートが長期間ガラスを守ります。熱成型性向上による短時間での施工性と、独自粘着技術の融合による貼替時の剥離性を両立しました。

スミロン

▶[公式サイト](#)

▶カラーPPF

RAVEN MATTE



黒マットを貼ると少しグレーっぽくなってしまふ...。そこにこだわる施工者に特にオススメ! 比べると「黒の深さ」が分かります。
・白ボケを抑えた濃い黒!
・クリアPPF同様に貼れる!
カラーチェンジだけでなく「黒塗装へのPPF」にも有効です。

●60インチ×15m (切売可)
●グロスタイプもあり

レジェンドジャパン

▶[公式サイト](#)

▶カラーPPF

DS カラー / DS ケミ

2026年、ダイヤモンドスウェルは大幅なラインアップの拡充を図ります。今春より近年需要が高まりつつあるカラーPPFをラインナップ。年内に200色オーバーのラインナップを計画しています。

またPPF施工車に向けたカーシャンプーからメンテナンスコーティングまで、フィルム開発の枠を超えたトータルディテリングをご提案します。



DS Color

DS Chemi

DIAMOND SWELL (ブレックス)

▶[公式サイト](#)

▶施工ツール

電動スプレーヤー 2L (QF-QC454-01)



カーラッピング施工時の水貼り・下処理作業に適した電動式スプレーです。ボタン操作で安定した噴霧が可能のため、施工ムラを抑え、作業効率を向上させます。霧状・柱状の2モード切り替えにより、広範囲からピンポイントまで柔軟に対応。軽量かつ握りやすい設計で、長時間の施工でも負担を軽減します。

Qfield Corporation

▶[公式サイト](#)



NEW TOOLS for PRO



JCWA NEWSLETTER

#08 | 木ノ内朋宏

個人で続けてきたからこそ、 個人が助け合える場を作りたい



福井県で施工ショップを営んでいる木ノ内です。苅谷会長からお声がけいただき、協会発足当初に入会。現在は理事として、会議録を整理したり競技会の運営補助をしたりと、雑務全般を手伝っています。

私の施工歴はかれこれ約20年に上ります。最初は電装・チューニング業で独立しましたが、映画『ワイスピ』やスポコンブームでバイナルグラフィックに触れ、デザインソフトから学び直してフィルム業に入っていきました。その後エアフリーのラッピングフィルム登場でカラーチェンジが隆盛し、ここ5年程は弊社でもPPFが急速に拡大。かつてのカスタムカーを対象としたバイナルから、高級車を対象としたカラーチェンジ、そして今のPPFへと、時代とともに移り変わってきた「クル

マ×フィルム」の在り方。私も様々な場所で新商品に触れたり講習で技術を学んだり、その変遷を追いかけ、また楽しんできました。

そして、私も長らくそうでしたが、とりわけ個人事業主が多いこの世界。新しい資材・技術の情報もさることながら、例えば進化する機能を壊さない“車両の触り方”、自管賠をはじめとした“預かり車両への補償”、病気や怪我などの際に“施工を代行する外注ヘルプのツテ”など、個人・小規模事業者だからこそ“備え”も必要です。フィルムビジネスがこれからもっと盛り上がるからこそ、困った時に「コレどうしている?」の一言を聞ける場。協会が情報源であると同時にそんな空間になれるよう今後も尽力します。

#09 | 久保田博之

フィルム・カスタムの楽しさをもっと多くの人へ—



協会には21年に入会。競技会や講習会への参加を経て23年に理事職を拝命し、この約2年イベント補助など運営に携わりました。今は石川県に自社を構えつつ、約9割はヘルプ施工に飛び回っています。

実は私は施工の歴も浅く、2019年に講習を受けて開業したのが始まり。それまでは家業の足場屋（建築）を営んでいました。ただ昔からクルマが好きで、10~20代は自作ステッカーで愛車のドレスアップに熱中。その熱量を失うことなく39歳でフィルム施工者になりました。

そこで直面したのが、「技術向上には経験が必要だけど、技術がないうちはその経験を積む仕事がない」という定番のジレンマです。開業後しばらくは足場屋との兼業で、色々模索する中で支えになったの

がご縁のあった同業の仲間の存在でした。相談に乗ってもらい、徐々にヘルプ施工に呼んでもらう機会も増加。腕がないのを自覚していたので当初は宿泊代を断って車中泊などもしましたが、今ではフィルム施工業一本でやっていけるくらいにはなりました。

その経験もあり、自分だけでなく「一緒に盛り上げたい」というのが施工業への個人的な強い想い。そして施工者周りだけでなく、施工依頼・DIY問わず一般の人にもっとフィルム施工を身近に感じてほしいし、それだけの魅力があると思っています。理事としても施工者としてもまだまだ若輩者ですが、まずは困っている同業者の力になれるのであれば、その一心で、今後も仕事・協会活動ともに精進して参ります。

あなたの仕事を楽しくするツールが揃っています カーラッピング用品専門プロショップ



カーラッピング
ペイントプロテクションフィルム
ウインドプロテクションフィルム

施工ツールはもちろん
フィルム資材についても
お気軽にご相談ください！

- 施工ツールカタログ無料配布中！
- 施工業者向け業販登録店様 随時募集中！
- 販売代理店様 随時募集中！

オンラインショップへ
スマホでアクセス！



登録希望の業者様はお気軽にお問い合わせくださいませ。
E mail: info-ppf@designlab.co.jp TEL: 0586-89-4341

P-Factory オリジナル プレカットソフトウェア

I CUT PROGRAM

豊富・高精度なデータ数
直感的なユーザビリティ
フリーカット / 手頃な月額

期間限定 誰でも割引プラン 実施中！

FlexiShield / LEGEND
のフィルム使用でさらにお得！
**コスパ高い
プレカットデータ**

ゼロスタートもスキルアップも！
競技会優勝ショップの実践的ノウハウ
**PPF / WPF / カラー PPF
技術講習**

材料フィルム支給
宿泊施設 無料付帯
プレカット+技術講習でさらにお得！
3日間 30万円 (税別) ~



ビーファクトリー 事業者

まずはお気軽にご相談ください
※講習は原則、弊社推奨メーカー・フィルムを
使用しますが、ご要望に応じ幅広く対応します

有限会社いのうえ
〒243-0307
神奈川県愛甲郡愛川町半原3871-2
TEL.046-211-5121

- Rinda Factory -

Vinyl Wrap Design

make a car as an artist.



“車”の美容室

CAR BEAUTY SALON

WWW.RINDAFACTORY.COM



@rinda_f

カーラッピング&プロテクションフィルム専門店
ヨプラスデザイン

大胆にイメージチェンジ！
色褪せなしのUVレゾニング施工！

プリンター新機種導入！
大きな車面も繋ぎ目無しで施工可能に。

姿を見せない車のボディガード！
無色透明のプロテクションフィルム！

Before

当店オリジナルデザインの
[LDカーボンメタリックグロス]

After

時代は
「塗る」から「貼る」へ

カーラッピング&プロテクションフィルム

Film Installation



SEARCH **ヨプラスデザイン** GO

TEL 024-926-0978



所在地 福島県郡山市菜根 2-9-8
E mail wrap@laplus.design
営業時間 9:00 ~ 18:00
定休日 火曜日
U R L https://laplus.design

古物商許可 第251080004232号

LINE y.t.lidl
Instagram laplus_design
Twitter @LapLusDesign
Facebook LapLus Design



4-star 認定インストーラー



CWI 認定インストーラー

XPPEL 認定施工店



ラジオ福島
★ 静御前通り

内環状線

■ 下田ヒブ科 医院

■ 福島銀行

■ ヨークベニマル



3M製フィルム特約販売代理店

LAPPSはあなたのパートナーです

LAPPSのサービス



商品

3M商品の在庫確保と社内検品で高品質を提供。



サポート

累計参加者1000名以上！定期講習会を開催。講習会後のフォローと、技術・ビジネス支援カリキュラムの提供。



普及活動

業界の最新情報を収集し、発信。業界全体の発展を目指します。



東京都墨田区
カーラッピングセンター



3M™ラップフィルムシリーズ2080
スコッチガード™ペイントプロテクションフィルム
その他カーラッピングフィルム・備品等取り扱いあり！

法人向けに業販登録受付中！

詳細はコチラ



ご登録で、業販価格での販売、定期的なキャンペーン情報や新製品のご案内をお届けします。



株式会社ワイエムジーワン

事業本部・カーラッピングセンター
〒130-0003 墨田区横川1-1-10 すみだパークプレイス II
TEL 03-3635-1266
<https://lapps.jp/>
<https://www.yamaga-net.co.jp/>



午前中の注文でその日に発送！！

REAL CARBON WRAPPING FILM

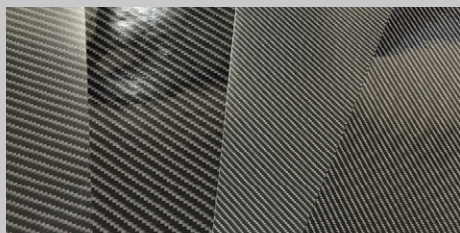
評判の人気商品！プロも認めるリアルな仕上がりがり！！

独自のデータ技術を駆使し、これまでにないリアル感を追求。

カーボンパターンも2種類用意し、純正カーボンパーツに対応。

デジタルインクジェットメディア AVERY DENNISON MP1105 スーパーキャストEZRSを使用。

貼り易さもさることながら、他にはないリアルな質感が最高の仕上がりを実現します。



リアルカーボン ラッピングフィルム

左から マット(粗目)、グロス(粗目)、マット(細目)、グロス(細目)

スペック | フィルム幅 / 1480mm×~5m ※切売りOK
フィルム糊 / エアフリータイプ・長期再剥離

業販可！！

〈定価〉1m × 1480mm 15,000円

商品の詳細や業販のご相談など、下記までお気軽にお問合せください！！



ご希望の方全員にサンプルを無料配布!! (10×10cm)

← QRコードを読み込み メール作成 をクリック! 必要事項を入力の上メールを送信してください。



〒253-0101 神奈川県高座郡寒川町倉見1755-1

ヤマックス株式会社 G-meister 事業部

TEL. 0466-21-8900 FAX. 0467-37-9210

WEBからカンタン注文!!
<http://www.g-meister.net>

